

日本看護技術学会第 17 回学術集会趣意書

日本看護技術学会は、営々と積み重ねてきた看護技術について、その効果と根拠を明確に示し、その効果とメカニズムについて科学的手法を用いて明らかにすること、経験的知識を発掘してさらなる看護技術の開発をすることを目的に設立されました。設立から 18 年を数え、会員数は 1500 名を超え、2015 年 4 月には、日本学術会議協力学術研究団体に指定されております。

この度、日本看護技術学会第 17 回学術集会を青森県立保健大学で開催することとなりました。メインテーマは、

『看護技術のちから－実践のジレンマのブレイクスルー－』

といたしました。

「看護（ケア）」は有史以前からある、また、人間以外の動物にもみられる根源的な営みです。相手の自己実現を助けるために専心して個別的に関わり、ケアの行為や相手の自己実現が、ケアを行った者の喜びになる、というケアの形態は変わることのない本質だと思います。しかしながら、「職業としての看護」では、平等で一律であること、効率的であること、ルールを守り役割の域を越えないことが求められています。本質と現実、このふたつの共存の困難性からジレンマが生じていると考えられます。例えば、安全を守るために行っている身体拘束が患者の安楽を著しく阻害している現状、他専門職に仕事を譲り看護の実感が得られていない現状、看護技術の科学的検証が進まないことでその真の効果をもたせていない現状等。

私たちは今後どのように看護実践を、看護教育を、看護研究を行っていけばよいのでしょうか？私は、これらのジレンマをブレイクスルーする「ちから」は私たちが身につけている「看護技術」にあるのではないかと考えています。

本学術集会では、具体的に生じているジレンマを挙げ、ブレイクスルーの方策について、成功・先進事例、イノベーションの開発、研究、伝統の良さを見なおす取り組みなどをきっかけに議論を広げていきたいと考えております。

本学会の特色は、臨床看護師と研究者とが一堂に会し、情報交換し、刺激し合っていることです。この強みを活かし、明日への一步に希望が持てるような学術集会になるよう準備しております。皆様のご参加、ご支援を心よりお待ちしております。

日本看護技術学会第 17 回学術集会
大会長 青森県立保健大学 角濱 春美

日本看護技術学会第17回学術集会

事業計画書

【会期】 2018年9月8日（土）～9日（日）

【会場】 青森県立保健大学
〒030-8505 青森市浜館字間瀬 58-1

【会長】 角濱 春美（青森県立保健大学理事・学部長）

【参加者】 看護師、助産師、保健師、看護教員、看護学生、他

【参加予定人数】 約700名

【事業内容（予定）】

1. 日本看護技術学会に所属する学会員の演題発表
2. 会長講演
3. 看護技術、看護管理、看護人材育成、看護技術の開発等に関するセッション 10題程度
4. 会員提案テーマによる交流セッション
5. 企業展示・ランチョンセミナーによる情報交流

【事務局】 日本看護技術学会第17回学術集会

事務局長 藤本 真記子

E-mail : info@jsnas17.jp

FAX : 017-765-2055

ホームページ : <https://jsnas17.jp>

日本看護技術学会第 17 回学術集会

開催概要

1. 学術集会の名称 日本看護技術学会第 17 回学術集会
2. 主催 日本看護技術学会第 17 回学術集会企画委員会
3. 学術集会長 角濱 春美（青森県立保健大学理事・学部長）
4. 開催時期 2018 年 9 月 8 日（土）
9 日（日）
5. 会場 青森県立保健大学
〒030-8505 青森市浜館字間瀬 58-1
6. 参加者 県内外の看護師、助産師、保健師、看護教員、看護学生、他
7. 参加予定人数 約 700 名
8. 参加費

会員	（事前受付）	10,000 円
非会員	（事前受付）	11,000 円
会員	（当日受付）	11,000 円
非会員	（当日受付）	12,000 円
学生	（抄録あり）	4,000 円
学生	（抄録なし）	2,000 円
9. 大会テーマ
「看護技術のちから－実践のジレンマのブレイクスルー」
10. 学術集会の内容（予定）

学術集会企画委員が主催するセッションとして、キーとなる話題についてシンポジウム形式で発表および議論を行う「キーセッション」を 6 題、実践・研究・教育の種となる新たな知見について情報提供と議論を行う「seeds セッション」2 題、事例を物語る「リレーセッション」6 題を企画した。

学会本部の企画するセッションとして、技術研究成果検討委員会と研究活動推進委員会（卒業研究交流セッション）が企画されている。

学会員がテーマを応募しお互いの交流を行う交流セッション、研究の発表を行う一般演題が企画されている。

1) 学術集会企画セッション

(1) キーセッションⅠ (大会長講演)

「ジレンマのブレイクスルー：看護師の抱えるジレンマとブレイクスルーの様相」

演者 角濱春美(青森県立保健大学健康科学部看護学科)

座長 上野栄一(福井大学学術研究院医学系部門 看護学領域)

(2) キーセッションⅡ

「現在の看護に感じるジレンマとその源泉：対談」

対談者 川嶋みどり(日本赤十字看護大学名誉教授)

対談者 西村ユミ(首都大学東京)

(3) キーセッションⅢ

「伝統と科学のジレンマ：看護技術は職人技か？科学か？」

リーダー兼スピーカー 武田利明(日本看護技術学会理事長・岩手県立大学看護学部)

スピーカー 高橋有里(岩手県立大学看護学部)

スピーカー 村上繁子(済生会岩泉病院)

スピーカー 柳澤敦子(岩手県立大東病院)

(4) キーセッションⅣ

「安全と安楽のジレンマ：ディスプレイブルタオルの開発と普及から」

リーダー兼スピーカー 矢野理香(北海道大学)

スピーカー 深井喜代子(岡山大学保健学研究科)

スピーカー 澁谷幸(神戸市看護大学基盤看護学領域基礎看護分野)

(5) キーセッションⅤ

「看護の本質と役割のジレンマ：看護師は何をする人なのか」

リーダー兼スピーカー 上泉和子(青森県立保健大学)

スピーカー 菱沼典子(三重県立看護大学)

スピーカー 嶋森好子(岩手医科大学看護学部)

(6) キーセッションⅥ

「安全と安楽のジレンマ：安楽は安全を導く—抑制しない看護—」

リーダー兼スピーカー 縄秀志(聖路加国際大学)

スピーカー 小藤幹恵(金沢大学附属病院)

スピーカー 川野恵智子(八戸市立市民病院)

(7) Seeds セッション I

「療養生活と日常生活の乖離のジレンマ：日常生活をケアに組み込む」

リーダー兼スピーカー 加藤木雅史(聖路加国際大学)

スピーカー 大橋久美子(姫路獨協大学)

スピーカー 酒井禎子(新潟県立看護大学)

(8) Seeds セッション II

「伝統と科学のジレンマ：患者の意思決定に関わるシャーマンの役割」

リーダー兼スピーカー 藤井博英(東京情報大学)

スピーカー 鳴海秀雲(二代目元祖津軽イタコ)

(9) リレーセッション

看護のちからを事例で語る

コーディネーター兼事例発表者 小山敦代(聖泉大学)

木村恵美子(青森県立保健大学)

事例発表者 角濱春美(青森県立保健大学)

柳奈津子(群馬大学)

2) 技術研究成果検討委員会セッション

主催：技術研究成果検討委員会

3) 学会員応募による交流セッション

4) 一般演題(口演・示説)

5) 卒業研究交流セッション

11. 懇親会

日時 2018年9月8日(土) 17:30～

場所 青森県立保健大学

会費 5,000円

12. 企画委員会

会 長：角濱 春美 (青森県立保健大学)

事務局長：藤本真記子 (青森県立保健大学)

委 員：矢野 理香 (北海道大学)

高橋 有里 (岩手県立大学)

榎谷 京子 (八戸平和病院)

佐藤真由美 (弘前大学)

上野 栄一 (福井大学)

四谷 淳子 (福井大学)

松島 正起 (青森中央学院大学)

上泉 和子 (青森県立保健大学)

木村恵美子 (青森県立保健大学)

鄭 佳紅 (青森県立保健大学)

福井 幸子 (青森県立保健大学)

村上真須美 (青森県立保健大学)

小池祥太郎 (青森県立保健大学)

小林 昭子 (青森県立保健大学)

沼田 祐子 (青森県立保健大学)

市川美奈子 (青森県立保健大学)

村上 純子 (青森県立保健大学)

13. 連絡先 日本看護技術学会第 17 回学術集会

事務局長 藤本 真記子

E-mail : info@jsnas17.jp

FAX : 017-765-2055

ホームページ : <https://jsnas17.jp>